

(国語)

「自分の考えや思いを進んで伝え、ともに学び合う子どもを育てる」

—「話す・聞く」力の育成を通して—

大阪市立明治小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校では、豊かに学び合う集団の育成を目指し、様々な教科の研究に取り組んできた。その結果、それぞれの学習の場において、お互いのよさを認め合いながら学び合っているとする基本姿勢が身についてきている。しかし、その学び合いの場において、自分の考えを伝えることが消極的になり、伝えようとしても、言葉が短文になってしまい自分の思いを上手く伝えられなかったり、最後まで集中して聞くことができなくて、友だちの考えをきちんと受け取れなかったりする児童がいることも実態としてあがってきた。

そこで昨年度より、これらの課題を解決し、相手の思いを受け取り自分の考えを進んで伝える力をさらにつけることができるよう、「自分の考えや思いを進んで伝え、ともに学

び合う子どもを育てる」を研究主題に、「国語科」を研究の中心に置き、「話す力」「聞く力」を高めることを目指して研究を進めてきた。

1 年目は、どの教材でどのように「話す・聞く」場面を取り入れると、より児童の意欲を

高めることができるのかを探るため、手立てを考慮しながら授業の組み立てを行った。また、音読を日常的言語活動を育む活動の中心に置き、学校独自の副読本を作成して積極的に取り組んだ。児童は「話す・聞く」活動に対し意欲的な姿勢を見せ一定の成果が上がった。しかし、「話し合う」形式や方法ばかりに意識が向き、内容としての理解や深まりに欠けるという課題も生じた。また、新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現、教育内容の主な改善事項としての言語能力の確実な育成が示された。

そこで、本年度は、児童の言語活動に対する意識をさらに高め、主体的・対話的で深い学びを具現化する授業の工夫について、物語文の読解を深めるための「話す活動」「聞く活動」を中心に、研究を進めていくことにした。

2. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 子どもの意欲を高める 授業の工夫

- 話したい！聞きたい！と思うような教材へのアプローチの工夫
- 相手や目的に対する意識を明確にした「話す・聞く」における場の設定の工夫
- 学習形態の工夫（ペア・グループ・少人数・学級・学年・全校）

視点② 日常的な言語活動を育む取り組み

- 音読、暗唱
 - ・副読本「レッツ 音読」
- 読書
- 掲示物による環境づくり
- スピーチ（系統だてでのスピーチ指導）

- ・スピーチテーマの共通化
- ・うちわによる視覚的支援

低学年	中学年	高学年
○相手に伝わるよう順序よく話す。	○相手に伝わるよう、筋道を立てて話す。	○内容が的確に伝わるよう、構成を考えて話す。
・主語・述語・基本話型 (いつ・どこで・何をした)	・基本話型・説明 (だれが・なぜ・どのように)	・5W1H・事実・意見・感想

- ・到達点の設定

3. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

視点①

- 伝え合う活動を通して児童は、同じ文章からもそれぞれに違う受け取り方や異なった感じ方があることを知り、違いを受けとめながらも互いのよさを認め合おうとする態度が見られるようになった。
- 「ペア」「グループ」「学級全体」といった、学習形態を工夫し、伝え合う枠組みを次第に大きくすることで、全員が自分の考えを友だちに伝え、感想を聞いたり自分の考えを振り返ったりすることができるようになってきた。
- ワークシートやメモ・付箋などに自分の考えを書き、書いたものをもとに話すようにした。その結果、児童は自信をもって話すことができるようになった。また、友だちの考えを聞く時には共通する部分や相違点が見つけ出しやすくなり、意欲的に話合いに参加しようとする児童が増えた。

視点②

- 「レッツ音読」を活用することで音読に積極的に取り組む児童が増え、昨年11月に行われた学習発表会では、どの児童からもはっきりした大きな声の発声が聞かれた。
- 詩や文章に対する興味の高まりから、「レッツ音読」の詩の掲示板の前で立ち止まって、互いに詩を唱和する児童の姿が見られるようになった。
- テーマが決まっているため、スピーチ指導を計画的に進めることができ、多くの児童がスムーズにスピーチできるようになった。自分と比べたり違いを見つけようとしたりしながら聞く態度も身についてきた。
- スピーチ後、意見交換の場を大切に取り組むことで、質問内容がテーマに沿った精選されたものになっていった。

(2) 今後の課題

- 授業における話合い活動が課題解決に沿ったものとなるよう、発問や支援の方法をさらに追求していく。
- 日常的な言語活動を育むため、音読や読書・スピーチ等に児童がさらに意欲的に取り組める方法を、指導者が相互に交流し深めていく。